

日本グループ・ダイナミクス学会会報

JGDA

ぐるだい ニュース

The Japanese Group Dynamics Association

<http://www.groupdynamics.gr.jp/>

第 63 号

(2023 年 6 月 5 日)

発行所： 広島大学 坂田桐子研究室

日本グループ・ダイナミクス学会

E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp

発行人：坂田桐子 編集担当：藤村まこと

目次

新会長のご挨拶	2
退任のご挨拶	3
日本グループ・ダイナミクス学会 第 69 回大会開催の挨拶	4
国際化支援	6
国際化支援制度	6
AASP 年会費特別割引について	6
機関誌『実験社会心理学研究』について	7
実験社会心理学研究 2022 年度 62 巻 2 号 掲載論文	7
実験社会心理学研究 掲載予定論文	8
事務局からのお知らせ	9
会員異動	10
グルダイ学会関係連絡先	11

新会長のご挨拶

新会長 坂田桐子（広島大学）

この度、日本グループ・ダイナミックス学会の会長を仰せつかりました。これまで、常任理事や理事として学会運営に関わってきたことはありましたが、「会長としての自己」を全く想像したことがなかったためやや動揺しております。しかし、会長を拝命したからには、伝統ある日本グループ・ダイナミックス学会の発展に微力ながら貢献できるよう、精一杯努めたいと考えております。2年間、どうぞよろしくお願い申し上げます。



グループ・ダイナミックス学会が近年慢性的に抱えてきた問題として、会員数、特に学生会員の減少、及び機関誌に掲載する論文数の減少が挙げられます。これらに対しては、北村前会長時代に正会員（学生）の年会費の大幅値下げや特集号の編集などの積極的な対策がなされたので、今期もその方向性を踏襲しつつ、さらに若手会員の増加と論文投稿の促進を図りたいと思います。若手の会員にとって魅力ある学会にするための方策を、当事者のご意見を伺いつつ考えて行ければと思います。機関誌については、62巻2号の特集号として10編もの論文が掲載されたことを考慮すると、学会としての活力が衰えているわけでは決してなく、うまく投稿を促進することで充実した誌面にすることができると考えられます。また、西田会長時代、Beyond Academismのスローガンのもとに第65回大会より開始されたコラボ・リクエスト企画についても、その精神をさらに効果的に実現できるよう、改革を試みたいと考えております。グループ・ダイナミックスという学問が（あるいは社会心理学も）社会の問題解決に大いに貢献できる力を持ちながら、一般社会には知られておらず存在感がないということは、私自身が研究する中で痛感してきたことでもあります。社会における様々な課題の解決を目指して実務家や現場の人々、あるいは他の学問分野の人々と協働し、学術的にもインスパイアされるような場を創出することを目指したいと考えております。

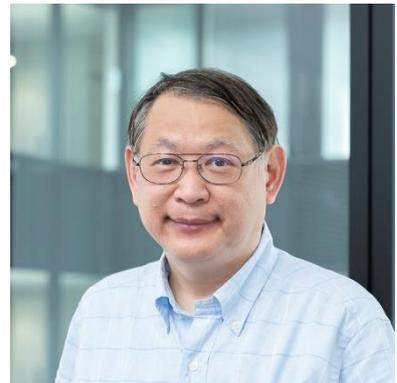
グループ・ダイナミックス学会は、小規模学会であるために不利な部分もありますが、会員の研究テーマや研究手法には十分にダイバーシティがあると認識しています。大規模学会の大会では自分と似た方法論や共通の研究関心を持つ研究者と出会える楽しみがありますが、小規模学会の大会では、大規模学会では交流しないような、異なる研究関心や方法論を持つ研究者とも密に交流しやすいという、小規模学会ならではの長所もあると考えています。そうした密な交流や議論を通して、革新的・独創的な研究が生まれることを願っております。

私自身はサーバント・リーダーシップに徹し、常任理事や理事の先生方、また会員の皆様と共に、意見交換や議論を重ねることによってより良い学会を目指したいと思います。どうか積極的なご参加とご協力をよろしくお願い申し上げます。

退任のご挨拶

前会長 北村 英哉（東洋大学）

2021年春から2年間会長を務めさせていただきました。時は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）蔓延下であり、学会大会は前年度開催を延期したという状態でのスタートでした。3月に引き継ぎ時の常任理事会も局所的には対面で前会長にお目にかかることができましたが、新メンバーはZoom会議でのご挨拶で、2年経ち、この2023年3月に開催しました最終常任理事会にて初めて対面会議を開催することができました次第です。



ある意味、学会運営上それが大きな支障になるということは意外になく、事務局長を含めましたご尽力で、インターネットでチャット会議ツールを用いて円滑に運営されてきました。むしろ、常任理事会を開催するその日だけではなく、Slackで随時、問題や課題を投げ、その都度対処するという仕方は学会運営には合っている印象で、常任理事の先生方の素早い反応性にも助けられ、常任理事会を開催する日には多くの問題は片付いて、その確認や報告で済み、込み入った相談、新企画などに時間を傾注することができました。

お陰をもちまして年来の課題であった機関誌の電子化に着手でき、また、大学院生の会費値下げなどの取り組みで少し会員数を上向かせる試みなどの改革をなすことができました。機関誌をおとりになっている先生には、現在まだ増額となっておりますが、今後対応を考えられると思っております。いずれも、事務局長含め、適材適所に常任理事を得られたことがわたしの最も大きな財産であり、それぞれの課題を進めていただきましたのは、ひとえにそれぞれの分掌の先生によるものです。特に編集委員会では新型コロナについての特集を組み、また査読の仕方にも注意喚起し、一石を投じたことは、他学会にも波及しております。日本学術会議問題はいまだ決着せず、むしろ問題のある改正案が提示されている段階です。残された問題もありましたが、次期に期待をし、任期を全うできましたことを、会員みなさまの支援の賜とここに感謝を申し上げさせていただきます。退任のあいさつとさせていただきますと思います。みなさま、ありがとうございました。

第 69 回大会準備委員会 大会委員長
三船恒裕(高知工科大学)

学際的なグループ・ダイナミクス研究の展開

COVID-19 と名付けられた新型コロナウイルスによる感染症は瞬く間に世界中へ広まり、日本も例外なくその禍に巻き込まれました。2020 年 1 月に日本での最初の感染が確認されて以降、のちに第 1 波と呼ばれる感染拡大を経験し、その後何度も流行期を経て現在へ至っています。もちろん、その間にあった出来事はパンデミックだけではありません。地震などの災害、あるいはロシアによるウクライナへの軍事侵攻など、人々の生活を脅かす出来事が数多く生じています。人間とは何か。人間が作り出す社会とは何か。社会における人々の心理や行動のメカニズムを理解する試みの重要性は低まるどころか大きく高まっていると感じます。

2023 年 9 月 23 日土曜日と 24 日日曜日に、高知工科大学永国寺キャンパスにて、第 69 回日本グループ・ダイナミクス学会を開催いたします。第 69 回大会のテーマは「学際的なグループ・ダイナミクス研究の展開」です。個人と集団との相互作用・相互構成関係を明らかにしようとするグループ・ダイナミクス研究は心理学の分野にとどまりません。社会学や人類学などだけでなく、近年では生物学や情報科学、あるいは神経科学的なアプローチもなされてきています。今後のグループ・ダイナミクス研究をより実りよく、より発展させていくためには他領域における近年の展開を把握し、取り入れ、協同していく必要があると考えます。

そこで本大会では、まず、「同調現象解明に向けた学際的アプローチ」というタイトルで大会準備委員会企画シンポジウムを企画しました。話題提供者は神経経済学が専門の鈴木真介先生（一橋大学）、社会神経科学が専門の出馬圭世先生（高知工科大学）、数理生態学が専門の豊川航先生（University of Konstanz、理化学研究所）です。御三方はいずれも心理学における同調研究を踏まえたうえで、MRI といった神経科学的手法や、学習モデルや生態学モデルなどの数理的手法を駆使し、同調現象の謎に迫っています。いずれの先生方も学際的なアプローチによって心理学以外の分野にも波及的意義を持つような研究を展開されています。本シンポジウムではそうした研究をご紹介します。また、話題提供者の先生方からの要望もあり、今回は指定討論者を置きません。フロアの先生方との活発な議論・意見交換を期待しております。

大会準備委員会企画の特別講演は東京大学の亀田達也先生にお願いしました。亀田先生の「合議の知を求めて」（1997 年）、「モラルの起源」（2017 年）や「連帯のための実験社会科学」（2022 年）といった著書を拝見すれば、一貫して心理学の枠にとどまらない、広く科学的な観点を持って研究を進められていることがわかります。哲学、経済学、人類学、生物学など、様々な学問分野における理論や知見だけでなく、MRI や計算論的アプローチなど、研究手法の面でもまさに学際的な研究を推し進められています。その成果は Proceedings of the National Academy of Science に代表されるような自然科学を含む科学一般の成果が発表される学術雑誌に掲載されるだけでなく、Journal of Experimental Social Psychology といった心理学で高く評価される雑誌

にも掲載されています。近年の研究においても、分配の正義における集団討議の影響など、まさにグループ・ダイナミクス研究を展開されております。そうした先生の豊富な経験から、学際的なグループ・ダイナミクス研究をどのようなビジョンを持って、どのような方法で進めてこられたのか、ご講演いただく予定です。

本大会は完全対面形式にて開催いたします。新型コロナウイルス感染症の第8波のピークを過ぎた頃、その後の状況に対する不安もありましたが、完全対面開催を決定いたしました。オンラインやハイブリッドでの学会大会も良いものでしたが、学会はやはり対面が良いと個人的に感じています。それは、オンラインだと日常業務に忙殺されて大会参加に二の足を踏んでしまうというスケジュールの問題もありますが、何よりも直接会って話す機会をインフォーマルにも作ることができるというメリットがあります。私自身、大学院生の頃に参加した学会で、発表の合間の移動時間や休憩時間、あるいは懇親会やその後の2次会で出会った人々とインフォーマルに研究の議論をしたことをよく覚えています。その時の経験が自身の知識や考えを見直す機会になったり、その後の研究者ネットワークの構築に結びつきました。今回の大会では是非とも会場にお越しいただき、発表というフォーマルな場面だけでなく、その前後にあるインフォーマルな交流の機会を十分に活用し、楽しんでいただきたいと思います。

大会会場の高知工科大学永国寺キャンパスは高知市中心部に位置しています。高知龍馬空港からバスで25分(プラス徒歩10分)、高知駅からは徒歩15分です。繁華街である帯屋町商店街や、お昼から(朝から?)お酒を飲めるひろめ市場には徒歩5分、高知城へも徒歩15分程度で行けます。戻り鰹の美味しい時期、ぜひ高知まで足をお運びください。



高知工科大学永国寺キャンパス (右の建物が発表会場となる講義棟)

国際化支援

常任理事（渉外担当）
石井敬子(名古屋大学)

国際学会発表支援・参加費支援制度

国際学会発表支援制度は、大学院生・若手の会員を対象に、日本国外で開催される国際学会での発表旅費の支援を毎年度行うものです。毎年7月末を応募締め切りとしていますが、申請締め切りの時点で発表予定の研究だけではなく、当該年度にすでに発表した研究も支援対象となります。また、他学会の支援制度との重複受給も可能です。

新型コロナウイルスの影響もあり、今年度開催の学会も引き続きハイブリッド形式のものが見受けられます。そのため昨年度同様、オンラインでの国際学会発表に対しても参加費支援を行います。詳細については学会ホームページをご参照いただければ幸いです。状況に応じて柔軟に制度を運用していきたいと考えていますので、多くのご応募をお待ちしています。

学会 HP : <http://www.groupdynamics.gr.jp/support.html>

国際化支援制度

国際化支援制度は、本学会会員の研究の国際化を支援するため、会員が自らの研究成果を英文誌に投稿する際に英文校閲代金の一部を補助するものです。年齢制限はありません。

学会 HP : http://www.groupdynamics.gr.jp/support_international.html

AASP 年会費特別割引について

日本グループ・ダイナミクス学会（JGDA）の会員を対象に、アジア社会心理学会（The Asian Association of Social Psychology; AASP）の年会費が割り引かれます。今年度の特別割引の具体的な内容については現在交渉中です。詳細が決まりましたら、グルダイフラッシュを通じてご連絡します。

編集委員長 橋本 剛 (静岡大学)

副編集委員長 中島健一郎 (広島大学)

グルダイフラッシュでの連絡と重複しますが、実験社会心理学研究 62 巻 2 号が発刊されました。この号には特集『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) とグループ・ダイナミックス』の掲載論文が含まれます。ぐるだいニュース第 62 号でもお知らせしましたが、その一覧を以下に再掲いたします。読者のみなさまにお待ちいただくことになってしまいましたが、その分ご期待に沿える内容になっていると信じております。

編集委員会はこれからも「論文を評価するのは読者であり、その機会を作るのが仕事」という精神を大切にしていきます。そして、読者のみなさまの幅広いニーズに応えることを目指して、多くの論文をお届けできるよう努めていきます。今後とも実験社会心理学研究をよろしく願いたします。

実験社会心理学研究 2022 年度 62 巻 2 号 — 掲載論文

(2023 年 4 月発行 / 早期公開済み)

原著論文

- 杉山高志・矢守克也
「Days-After」の視座を用いた防災活動の分析
- Keita Suzuki, Yukiko Muramoto
“You will never know unless you try hard” :
Entity theorists who perceive effort as information
- 村上幸史
返信は早い方が良いのか? —携帯メールや LINE における「互酬性仮説」の検証—
- 宮前良平・大門大朗・渥美公秀
新型コロナウイルス感染症社会における災害ボランティア排斥言説の検討

特集『新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) とグループ・ダイナミックス』

原著論文

- 矢守克也・松原悠
「自粛」のグループ・ダイナミックス
- 田戸岡好香・石井国雄・樋口収
新型コロナワクチンの接種が在留外国人に対する態度に及ぼす影響
— 行動免疫システムの観点から —

- 清成透子・井上裕香子・松本良恵
COVID-19の身近な感染脅威が予防行動に与える影響—日本人大学生を対象とした研究—
- 吉澤寛之・笹竹佑太・酒井 翔・松下光次郎・吉田琢哉・浅野良輔
対人環境が子どもの反社会的傾向の変化に及ぼす影響
—COVID-19 対策としての長期自宅待機前後の縦断的検討—
- 真島理恵・木村多聞
利他的罰と感染予防規範逸脱者・感染者に対する攻撃との関連の検討
- 縄田健悟・大賀 哲・藤村まこと
COVID-19に関する陰謀信念がもたらす感染防止政策の否定と感染リスク行動：
感染リスク軽視の媒介的影響
- 小森めぐみ・武田美亜・高木 彩
COVID-19 第1波におけるリスク認知と予防行動：知識および社会問題リスク認知との関連
- 中井彩香・沼崎 誠
コロナ禍での他者の旅行が妬みや旅行動機に与える影響
—他者の旅行の時期と旅行計画の有無の効果—
- 古村健太郎・金政祐司・浅野良輔
COVID-19の流行がもたらす夫婦の相互依存性の変化

Short Note

- Mei Yamagata, Asako Miura
Retrospective bias during the COVID-19 pandemic

実験社会心理学研究 掲載予定論文

現時点で掲載決定となっている論文は以下の通りです。いずれも早期公開されております。

原著論文

- 寶田玲子・渥美公秀
「誰のための」「何のための」支援か
～日本で暮らす外国籍市民と支援者とのかわりの「ずれ」に着目して～
- 矢守克也・岡田夏美
メタレベルの視点に立った防災・減災に関する質問紙調査研究の分析

事務局からのお知らせ

常任理事（学会事務局長）

相馬敏彦（広島大学）

新運営体制のご案内

2023年4月より新しい体制で本学会の運営を行っております。新体制発足時（本年4月）にグールドイメールマガジン（JGDA_Flash）でご案内しておりますが、その内容を再掲しながら、改めてご案内させていただきます。

会 長 坂田 桐子（広島大学） <挨拶本誌巻頭>

事務局長 相馬 敏彦（広島大学） <https://home.hiroshima-u.ac.jp/souman/>

事務局担当を担当いたします相馬です。基本的な事務局の使命は、裏方として学会員の方の活動や学会の活性化を背後から支えることです。ですので、ここでのご挨拶も控え目にさせていただきますが、上記の目的のために必要でしたら、遠慮なく、いつでもご連絡、ご利用ください。

編集委員長 橋本 剛（静岡大学）

このたび「実験社会心理学研究」の編集委員長をお引き受けすることとなりました。力不足で何かと至らぬ点もあるかと思いますが、中島副編集委員長はじめ皆様のご助言・ご助力を仰ぎながら、円滑かつ着実な刊行のために尽力する所存です。実験社会心理学研究の良き伝統であるダイバーシティを大切にしながら、皆様の研究活動を盛り上げていければと思いますので、皆様の積極的な論文投稿、および論文審査へのご協力をお願い申し上げます。

副編集委員長 中島 健一郎（広島大学） <https://kennakashi.jimdofree.com/>

前期に引き続き、編集委員長として務めることになりました。当学会に育てていただいた恩返し of 気持ちを胸に、会員のみなさまにとってプラスになるような運営を、橋本編集委員長とともにがんばっていきたいと考えております。今期もどうぞよろしくお願いいたします。

渉外担当 石井 敬子（名古屋大学）

当学会には、国際学会発表支援、および国際誌への投稿を促すための英文校閲代金に関する支援、およびアジア社会心理学会の年会費の特別割引があります。ぜひ積極的にご活用ください。このような国際化に関することのみならず、産学連携に向けた取り組みも行っていく予定です。微力ながら当学会のこれらの活動に取り組んでいきますので、よろしくお願い致します。

大会担当 村上 史朗 (奈良大学)

2年間、大会担当を務めさせていただくことになりました。役割としては、大会関連の業務、特に、優秀学会発表賞の担当をしております。あと、2年に一度ですが、役員選挙の担当もしております。大会・優秀学会発表賞も、役員選挙も会員の皆様の積極的な参加があって、活性化すると思います。どうぞよろしく申し上げます。

広報担当 藤村 まこと (福岡女学院大学)

広報担当として担当させていただくことになりました。広報補佐として松尾 和代さんのお力も借りながら、会報、メールニュース、SNS、学会ウェブサイトを通して、会員の皆さまやグループ・ダイナミックスの魅力を社会に発信していきたいと思っています。その際には、会員の皆さまのお力を借りることも多いと思います。よろしくお願ひいたします。

事務局補佐 宮川 裕基 (追手門学院大学)

相馬事務局長の下で、円滑な学会運営に向けて各種のサポート業務を行います。歴代の補佐の先生方と同様、本学会に貢献できるように、業務に取り組みさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

会員異動

(2022年8月5日～2023年5月19日)

新入会員 ----19名

一般会員

浅沼 邦夫 小川 史恵 菅 さやか 平松 庸一

学生会員

上田 臯介 上原 秀斗 奥田 麻依子 北野 佳苗 後藤 華乃
佐藤 みちる 謝 新宇 隅田 莉央 高橋 龍 竹原 菜々子
趙 心語 朴 ゴウン 福山 秀平 馬目 蓉子 宮崎 美保

退会会員 ----29名

一般会員

阿部 廣二 井手 亘 伊藤 文人 今城 周造 大坪 靖直
神原 歩 菊地 梓 桑原 尚史 小玉 一樹 小牧 一裕
酒井 明子 高尾 堅司 戸田山 和久 林 直保子 飛田 操
深田 博己 法理 樹里 森上 幸夫 矢田 尚也 山中 隆史
山本 義史 吉村 英

学生会員

飯田 稔洋 栗田 真帆 高橋 真凜 高橋 裕佳 陳 俐珊
林 亦中 徐 文臻

* 50音順で掲載

グルダイ学会関係連絡先

本学会では、事務支局を中西印刷株式会社に開設しております。入退会、住所・所属等の変更、会費納入、機関誌等の未着・メールマガジンなどの配信先の登録・変更・停止等の連絡先として、事務支局である中西印刷株式会社までご連絡ください。

また、論文投稿先・審査書類送付先も中西印刷株式会社となっております。詳細は下記をご覧ください。各種お問い合わせの具体的な連絡先は以下の通りです。

事務支局【入退会、住所・所属等変更、その他お問い合わせ先】

日本グループ・ダイナミックス学会 事務支局
〒 602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷 (株) 学会フォーラム内
TEL : 075-415-3661 FAX : 075-415-3662
E-mail : jgda@nacos.com

学会運営・対外業務関連

日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局
日本グループ・ダイナミックス学会本部事務局
〒 730-0053 広島県広島市中区東千田町 1-1-89
広島大学大学院人間社会科学研究科 相馬敏彦 研究室
TEL : 082-542-7076
E-mail : sec-general@groupdynamics.gr.jp

投稿論文・学会誌編集関連【論文投稿先・審査書類送付先】

日本グループ・ダイナミックス学会 編集事務局
〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入
中西印刷 (株) 営業部編集校正課内
TEL : 075-441-3155 FAX : 075-417-2050
E-mail : jjesp-hen@groupdynamics.gr.jp

広報関連【ぐるだいの編集・記事の投稿、メールマガジンへのニュース記事投稿、 新刊案内や研究会案内等のニュース記事、書評、公募情報など】

〒811-1313 福岡市南区日佐 3-42-1
福岡女学院大学 藤村まこと 研究室 (広報担当 常任理事)
E-mail : office@groupdynamics.gr.jp

心 理 学 評 論

Vol. 66 (2023) の発行予定

- No. 1 2023年 9月 特集：アートと心理学
No. 2 2023年 10月 一般論文
No. 3 2023年 11月 特集：Developmental Cybernetics：
子どもとロボットのインタラクションから子どもとロボットの関係性へ
No. 4 2024年 2月 一般論文
年間4冊発行し、購読料は個人予約に限り8,000円、機関の場合は15,000円です。

Vol. 65, No. 3 (2023年3月発行)

特集：伴侶動物のこころを探る

編集：黒島妃香

- 黒島妃香 比較認知科学における伴侶動物研究の進展
—特集号「伴侶動物のこころを探る」の刊行に寄せて—
今野晃嗣 イヌの「性格」に関する研究の展開
堀 裕亮 イヌ性格研究の“精緻化”に向けて—今野論文へのコメント—
高木佐保 ネコの認知研究の最新動向と今後の展望
後藤和宏 ネコの社会的認知研究に対する期待—高木論文に対するコメント—
山根明弘 人間との関わりの中で変化し続けるイエネコの社会的行動
荒堀みのり ネコの社会行動のこれまでと未来—山根論文へのコメント—
瀧本（猪瀬）彩加 家畜ウマにおけるヒトの社会的シグナルの知覚能力
平田 聡 心の多様性とウマ研究—瀧本論文へのコメント—
関 義正 オウム・インコの発声行動と社会性における家禽化の影響
服部裕子 鳥類の音楽性と家禽化—関論文へのコメント—
甲田菜穂子・加瀬唯香 動物介在介入の有効性：イヌ、ヤギ、ウサギ、モルモットの比較から
濱野佐代子 動物介在介入の効果に影響を及ぼす要因—甲田論文へのコメント—

Vol. 65, No. 4 (2023年3月発行)

論 文

- 太田一実・滝沢 龍 高齢者・認知症ケアへのコミュニケーションロボットの活用に関する文献レビュー
藏口佳奈・入野野宏 成人顔のかわいさ：新たな魅力評価次元として
神原 歩 自己の客観性を過信する傾向についての—考察—
—研究の系譜とその適応的意義の検討—

特集：心理学と人類史研究の接点

編集：川畑秀明・齋木 潤

- 平川ひろみ 土器製作者とモーターハビット—民族考古学的知見に関連して—
川畑秀明 心理学と考古学とのさらなる接点を求めて—平川論文へのコメント—

心 理 学 評 論 刊 行 会

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学文学部心理学研究室内

TEL: 075-753-2753 FAX: 075-753-2835

E-mail: hyoron@psy.bun.kyoto-u.ac.jp

<http://www.sjpr.jp/>

郵便振替：01080-7-1208

北大路書房

〒603-8303 京都市北区紫野十二坊町12-8
☎ 075-431-0361 FAX 075-431-9393
<https://www.kitaohji.com>(価格税込)

パーソナリティのHファクター

—自己中心で、欺瞞的で、食欲な人たち— K. リー, M. C. アシュトン著 小塩真司監訳 四六・208頁・定価2640円 自分を利するために計算高く他人を操る、特別な地位や権利を得るに値すると自惚れている…… Hファクターの低い人々。パーソナリティのHEXACOモデルを提案した心理学者たちが、彼らに特徴的な性格傾向や行動様式を解説する。

未来思考の心理学

—予測・計画・達成する心のメカニズム— G. エッティンゲンほか編 後藤崇志, 日道俊之, 小宮あすか, 楠見 孝監訳 A5上製・720頁・定価11000円 目標実現のための心の仕組みを人に固有の「将来を模索し判断する力」を切り口に解説。認知, 社会, 教育, 健康等の分野にも展開。

感情制御ハンドブック

—基礎から応用そして実践へ— 有光興記監修 飯田沙依亜, 榎原良太, 手塚洋介編著 A5上製・432頁・定価6160円 本邦で展開されてきた多彩な感情制御研究を一覧できる書。基礎理論に始まり, 社会・人格・認知・発達・臨床・教育, さらに経済・司法・労働までの各分野における最新知見を8部31章21トピックで紹介。

エピソードで学ぶ統計リテラシー

—高校から大学, 社会へとつながるデータサイエンス入門— 山田剛史, 金森保智編著 A5・216頁・定価2310円 朝食を食べないと学力は低下するのか? ガチャでレアキャラが当たる確率は? 身近なエピソードや問いから統計に関する基本的な知識・スキルを学び, 数学的センスを養う。

非認知能力

—概念・測定と教育の可能性— 小塩真司編著 A5・320頁・定価2860円 「人間力」「やりぬく力」など漠然とした言葉に拠らず, 心理学の知見から明快に論じる。誠実性, グリット, 好奇心, 自己制御, 楽観性, レジリエンス, マインドフルネスなど関連する15の心理特性を取りあげ, 教育や保育の現場でそれらを育む可能性を展望する。

モビリティ・イノベーションの社会的受容

—技術から人へ, 人から技術へ— 上出寛子編著 A5・276頁・定価3520円 自動運転やMaaSをはじめ, 移動支援の技術の進歩と人・社会の調和について, 心理学, 哲学, 交通工学などから分析, 学際的な視座を提供する。社会的受容における多様性, 信頼や人々の幸福との関係についても議論する。

すばらしきアカデミックワールド

—オモシロ論文ではじめる心理学研究— 越智啓太著 四六・296頁・定価2420円 絵文字を使うやつはエロい? 連続殺人犯は目だけでわかる? 素朴な疑問を大真面目に追求した, 実在の論文を厳選。人間の行動を科学的に明らかにする心理学本来の面白さを伝えつつ, 各論文の信頼性や再現性, 関連研究を解説する。怪しい論文にだまされない留意点も収録。

Rを使った(全自動)ベイズファクタ分析

—js-STAR_XR+でかんたんベイズ仮説検定— 田中敏, 中野博幸著 A5・244頁・定価3520円 フリーソフトjs-STAR_XRが拡張され, 帰無仮説検定の代替案として近年関心が高まるベイズ仮説検定に新たに対応。データ分析から結果の書き方まで懇切にガイド。巻末には半期や全7回の授業用シラバスを収録。

心理学って面白そう!
どんな仕事で活かされている?

シリーズ **心理学と仕事 (全20巻) 完結!** シリーズ 監修 太田信夫
●A5判・148~232頁・定価2200~2530円

- | | | | | |
|-------------|------------|------------|-------------|----------------|
| 1 感覚・知覚心理学 | 2 神経・生理心理学 | 3 認知心理学 | 4 学習心理学 | 5 発達心理学 |
| 6 高齢者心理学 | 7 教育・学校心理学 | 8 臨床心理学 | 9 知能・性格心理学 | 10 社会心理学 |
| 11 産業・組織心理学 | 12 健康心理学 | 13 スポーツ心理学 | 14 福祉心理学 | 15 障害者心理学 |
| 16 司法・犯罪心理学 | 17 環境心理学 | 18 交通心理学 | 19 音響・音楽心理学 | 20 ICT・情報行動心理学 |

心理学概論

◎Wal-Bring な生き方を学ぶ心理学
大坊郁夫編

持続可能性を高め、よく生きるための
心理学入門テキスト。 2970円

はじめての発達心理学

◎発達理解への第一歩
古見文一・西尾祐美子編

基礎知識を解説し、Q&Aを交えなが
ら発達の謎に迫る。 2420円

家族心理学

◎生涯発達から家族を問う
相良順子編

個人の発達と家族の発達の関わりを
ワークを取り入れ解説。 2530円

心の専門家養成講座④

心理支援の理論と方法

狐塚貴博・田附紘平編

複雑かつ多岐にわたる心理支援につい
て、実践例を交えて解説。 3520円

何のためのテスト？

◎評価で変わる学校と学び
K・ガーゲン＋S・ギル 著／

東村知子・鮫島輝美訳
教育システム変革に向けて。 2750円

PAC分析研究・実践集③

PAC分析

◎支援ツールでここまでできる
PAC分析学会編

使い方を事例から解説。 2860円

主体的に学ぶ

発達と教育の心理学

高村和代・安藤史高・小平英志編
教職課程コアカリキュラム対応テキ
スト。課題・テストも掲載。 2530円

社会的子育ての実現

◎人とながり社会をつなぐ、保育カ
ウンセリングと保育ソーシャルワーク
藤後悦子 監修／柳瀬洋美 他編著

支援に必要な知識とは。 2640円

家族・関係者支援の実践

◎システムズアプローチによるさまざ
まな現場の実践ポイント
中野真也・吉川悟編

新たな対人支援にむけて。 3300円

心の専門家養成講座⑥

医療心理臨床実践

◎「こころ」と「からだ」「いのち」を支える
森田美弥子・金子一史編

医療分野での心理的支援。 3300円

テストは何のためにあるのか

◎項目反応理論から入試制度を考える
光永悠彦 編著／西田亜希子 著

大学入試制度改革を考える。 3630円

やってみよう！ 実証研究入門

◎心理・行動データの収集・分析
・レポート作成を楽しもう
古谷嘉一郎・村山綾編

2860円

プレゼンテーション 教育ハンドブック

◎VUCAの克服のために
中野美香 著

導入のステップを詳しく解説。 2970円

別室登校法

◎学校と適応指導教室での不登校支
援と集団社会化療法 中村恵子 著

チームを組んだ支援の方法。 2420円

地域からみる女性の ライフ・キャリア

◎主体的に働き方・生き方を選択でき
る社会の実現のために 小倉祥子 著

全国調査から分析する。 3080円

心の専門家養成講座⑨

福祉心理臨床実践

◎「つながり」の中で「くらし」「いのち」を支える
永田雅子・野村あすか 編

福祉における心理支援。 3300円

なぜあなたは国際誌に 論文を掲載できないのか

◎誰も教えてくれなかった本音に必要なこと
加藤 司 著

全ての悩める研究者へ。 2970円

動かして学ぶ！はじめての テキストマイニング

◎フリーソフトウェアを用いた自由
記述の計量テキスト分析
樋口耕一・中村康則・周景龍 著

2420円

コーチング心理学 概論 [第2版]

西垣悦代・原口佳典・木内敬太 編著

初版以降の新たな知見をふんだんに
盛り込んで改訂。 3080円

自閉スペクトラム症者の エピソード記憶とモタリング

◎新たな障害仮説に向けて
山本健太 著

自閉症についての新仮説。 5280円

転職における キャリア支援の オートエスノグラフィー

◎土元哲平 著

その連の自己省察を描く。 7700円

心の専門家養成講座⑪

危機への心理的支援

窪田由紀 編

災害、事故、暴力などに遭遇した個人
や集団への支援を解説。 3300円

あなたと動物と機械と

◎新たな共同体のために
ドミニク・レステル 著／

渡辺茂・鷺見洋一 監訳／若林美雪 訳
友情と連携の哲学。 3300円

Jamoviでトライ！ 統計入門

◎フリーソフトウェアで始める科学
データの分析
眞嶋良全・永井暁行 編

2750円